

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	片倉 みなみ	学校名	東久留米市立第三小学校
教科（科目）・領域	道徳・総合	対象学年（人数）	5年1、2、3組（82名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年10月～11月（10時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：手洗いを通して世界とつながる																													
2. 実践する教科・領域：	3. 学習領域																												
特別な教科道徳、総合的な学習の時間	<table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>A 多文化社会</td><td>文化理解</td><td>文化交流</td><td>多文化共生</td><td></td></tr> <tr> <td>B グローバル社会</td><td>相互依存</td><td>情報化</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>C 地球的課題</td><td>人権</td><td>環境</td><td>平和</td><td>開発</td></tr> <tr> <td>D 未来への選択</td><td>歴史認識</td><td>市民意識</td><td>社会参加</td><td></td></tr> </table>					1	2	3	4	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生		B グローバル社会	相互依存	情報化			C 地球的課題	人権	環境	平和	開発	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
	1	2	3	4																									
A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生																										
B グローバル社会	相互依存	情報化																											
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発																									
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加																										
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：マダガスカルの手洗いを通して、日本との違いや手洗いを普及させるための工夫を学ぶと共に、手洗いが世界共通の病気の予防方法であることを理解する。また、自分だけでなく周りの人の健康を守るために、自校において効果的な手洗いについて実践できる取り組みについて考え、行動する。																													
5. 単元の評価規準	① 知識及び技能	① 手洗いが世界共通の病気の予防方法であることが分かると共に、手洗いを普及させるための工夫を理解することができる。 ② 正しく手を洗うこともSDGsであり、自分たちの実践が目標達成のための取り組みであることに気付いている。																											
	③ 思考力、判断力、表現力等	① マダガスカルと日本の生活や習慣についての共通点や相違点に気付き、表現している。 ② 自分たちが普段行っている手洗いについて振り返り、課題を明らかにし、解決するための方法を考えている。																											
	③ 学びに向かう力	① 自校の手洗い改善に向けた活動において、自他の考え方の良さを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。																											

<p>6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <p>今の小学生は今後8年間SDGsと向き合うこととなり、持続可能な社会の創り手となることが求められている。持続可能な社会の創り手となるために、他者との違いを認めて理解する力や課題をとらえて解決する力が必要となる。本単元を通じて、異なる文化に対する寛容な態度を育むと共に、地球規模課題やSDGsに対する取り組みが他人事ではなくジブンゴトとして捉えられるようにしたい。そこで、普段の生活で実践できるものとして、日頃から行っている「手洗い」を題材として取り上げた。正しく手を洗うこともSDGsの一つであり、身近なことから取り組めることを実感させたい。また、自分たちの手洗いの課題をとらえ、その課題を解決するためにできることを考え、行動する力を養いたい。</p> <p>【児童／生徒観】</p> <p>本校の5年生はSDGsについて見聞きしたことはあるものの、これまで積極的に取り組んでおらず、国際理解教育についてもほとんど行っていない。学習の導入として、児童にとってこれらが難しいものではなく、自分たちにも取り組めるものとしたい。そこで今回は世界共通の病気の予防方法である手洗いを通して、自分たちの生活に反映させたい。本校児童の手洗いの課題として、新型コロナウイルス感染症の対策として以前よりも手洗いが定着してきた印象はあるものの、石けんを使っていなかったり、細部まで洗えていなかったり、最後ハンカチで手を拭かないなど効果的な手洗いについては課題がある。本校の5年生は素直で優しい児童が多いが、その一方で、自主的に考えて行動したり、自分たちから何かを発信するという経験が少ない。今回、自校全体の手洗いを改善させるための方法を考え、学校全体に発信することで、今後の活動の自信となるようにしたい。</p> <p>【教材観】</p> <p>子どもたちにとって遠い国のことよりも近くに感じてもらうため、子供にとって身近な存在である教員が、自身の協力隊の経験を単元に生かすことで、地理的にも心理的にも遠いアフリカの国が近いものになると想え、今回マダガスカル共和国を題材として選んだ。また、マダガスカルで活動していたJICAボランティアが現地のスタッフと協力して作成した手洗いの啓発のための歌「sasao ny tananao（ササオニタナナオ）」を通して、手洗いが病気の予防方法としてどの国でも大切であることや問題を解決するための工夫していることが学びとなると考える。</p> <p>【指導観】</p> <p>指導にあたり、途上国の課題ばかりに注目するのではなく、途上国の良い面についても理解させたい。そのために、第1時の道徳では、自分たちとの共通点を見つけられることやマダガスカルの人たちが生活の中で工夫していることが伝わるように指導する。また、使用する映像資料についても「水道がない」「石鹼がない」といった課題に対して、既にあるものを使って工夫したり、現実的に可能な方法で課題に対してアプローチしていることを学ばせたい。さらに、今回自校における手洗いの改善に取り組んだことをきっかけに、今後自信をもって課題を探究できる態度を養いたい。</p>
<p>7. 単元計画 (全 10 時間)</p>	

時	ねらい	学習活動	資料など
1	マダガスカルの人々の暮らしを通して、他国の習慣を理解することの大切さを考え、国際親善に努めようとする態度を育てる。 (特別な教科道徳 C 国際理解、国際親善)	<ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカルクイズを通して、マダガスカルの暮らしや産業について知る。 ・マダガスカルの小学生の1日について知り、自分たちとの類似点、相違点をワークシートに記入し、発表する。 ・他国の習慣やその国の事情を理解することがなぜ大切なことを考え、表現する。 ・2030年までにどんな世界になってほしいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカルの写真（自分が撮影したもの） ・ワークシート
2 本時	マダガスカルの手洗いを通して、手洗いが世界共通の病気の予防方法であることを理解する。 (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの啓発のための歌「sasao ny tananao(ササオニタナナオ)」の映像を見て、自分たちが普段行っている手洗いの方法と同じ点、違う点を見つける。 ・物がない場合、どのように対応していたか見つける。 ・紙芝居「Vahiny tsy iraina(招かざる客)」を聞き、感想や気付いたことを発表する。 ・ワークシートを記入し、学習のふり返りをする。 	映像資料「sasao ny tananao」(JICA Madagascar) 紙芝居「Vahiny tsy iraina」(JICA Madagascar) <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
3	自分たちの手洗いについて見直し、課題を把握する。 (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いチェッカーを使い、普段の手洗いで洗い残し部分を知る。 ・普段の手洗いについて振り返り、手洗いチェックシートを記入する。 ・自身の手洗いの課題をワークシートに記入する。 ・自身の手洗いの課題と改善策を仲間に伝え、アドレスをもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
4	マダガスカルに普及している手洗いの歌を通して、課題を解決するための方法について理解する。 (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料「sasao ny tananao」や紙芝居「Vany tsy iraina」を見る。 ・手洗いソングを作った元 JICA ボランティアに手洗いの歌ができた経緯や工夫したことなどをインタビューとしてまとめたものを聞く。 ・マダガスカルでの手洗いや手洗いソングが普及したポイントをつかむ。 	映像資料「sasaony tananao」(JICA Madagascar)
5～9	自校の手洗いの課題について解決するための方法を考え、実践する。 (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・第三小学校の手洗いの課題についてグループで情報を共有する。 ・課題を解決するためのアイディアを考え、グループで話合う。 ・アイディアの中から現実的に可能な方法を選択する。 ・どのように実践するか考え、準備する。 	
10	正しく手洗いすることもSDGsであり、自分たちの実践がSDGsの目標達成に向けた取り組みであったことを理解し、身近なところから課題について取り組めることに気付く。 (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習のふり返りをワークシートに記入する。 	ワークシート

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：マダガスカルの手洗いを通して、手洗いが世界共通の病気の予防方法であることを理解する。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「マダガスカルはどんな国でしたか。」 <ul style="list-style-type: none"> ・海がきれい、珍しい動植物がいる。 ・日本と同じでお米を食べる。 ・水汲みが大変。 ○ 「私たちの暮らしと似ている点もありましたが、違う点もいくつかありましたね。私たちの生活と違うところにはその国の事情などが影響していました。きれいな海や珍しい動物がいたり、日本にはない魅力がありました。しかしその一方で、家や学校に水道がなかったり、5歳未満で亡くなってしまう子どもが多く、その原因の多くは下痢や肺炎であることも学習しました。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い面や悪い面だけに偏ることなく、想起させる。 	  
展開 (30分)	<p>2 日本とマダガスカルの手洗いを比較し、相違点や類似点に気付く。</p> <p>(1) マダガスカルで普及している手洗いソング「sasao ny tananao(ササオニタナナオ)」を見て日本とマダガスカルの手洗いを比較する。</p> <p>○ 「今からマダガスカルで手洗いを普及させるために作られた歌『sasao ny tanano』を見ます。動画を見るポイントです。①何を使って手を洗うか。②手を洗うタイミングが自分たちと同じかどうか③手の洗い方は自分たちと同じかどうかです。」</p> <p>(2) マダガスカルの手の洗い方についてワークシートに記入し、自分たちの手洗いと共通点に赤で丸をつける。</p> <p>○ 「自分たちが普段行っている手洗いと同じところ、違うところはどこでしたか」</p> <p>① 手洗いに使うものについて <ul style="list-style-type: none"> ・石けんを使うところが同じ。 ・水を使っているところが同じ。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を見るポイントを提示する。 ・一度で情報が収集しきれない可能性があるため、二度映像を見る。 ・ワークシートの書き方を説明する。 ・動画を見るポイント①～③の順で意見を聞く。 ・板書は同じ点と違うところがわかるようにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料「sasao ny tananao」（JICA Madagascar） ・資料2（日本語歌詞）「ごはんの前、遊んだ後、トイレの前は手を洗おう」「石けんをつけて指と爪を洗おう」 

	<ul style="list-style-type: none"> ・石けんがなかったら灰を使うところが違う。 <p>② 手を洗うタイミングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の前やトイレの後手を洗うのが同じ。 ・遊んだ後手を洗うのが同じ。 <p>③ 手の洗い方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掌や指の間を洗うのが同じ。 ・日本は肘まで洗わない。 ・洗った手を風で乾かすと言っていた。 <p>3 手洗いが病気の予防のために大切であり、これらが世界共通の方法であることに気付く。</p> <p>○「マダガスカルの手洗いと普段自分たちが行っている手洗いは、ほとんど同じだと言えそうですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点が多いから同じだと思う。 ・洗うタイミングが一緒だから同じ。 ・マダガスカルの手洗いの方が細かい。 <p>○「自分たちが普段行っている手洗いと共通点もたくさんましたが、違うところもいくつかありました。マダガスカルでは水道がなかったり、石けんが手に入らなかったり、ハンカチがなかったりします。物がない場合、どうしていましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルで水道の代わりを作っていた。 ・石けんの代わりに灰を使っていた。 ・風で手を乾かしていた。 <p>○「石けんの代わりの灰は、みんなの生活には馴染みがありませんが、炭は毒素など悪いものを吸着する働きがあります。海外ではお腹を壊した時に薬として使われたり、日本でも誤って薬をたくさん飲んでしまったときに治療で使われます。また、水道がなかったら、ティップタップを作っていました。マダガスカルでは、物がなくても工夫していることがわかると思います。」</p> <p>○「実は、この歌は日本人のJICAボランティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出てこなかった類似点、相違点については子どもに聞きながら分類する。 <p>・同じや違うと考える理由を明らかにする。</p> <p>・物がなくても工夫している点に気付かせる。</p>	
--	--	---	--

スライド7



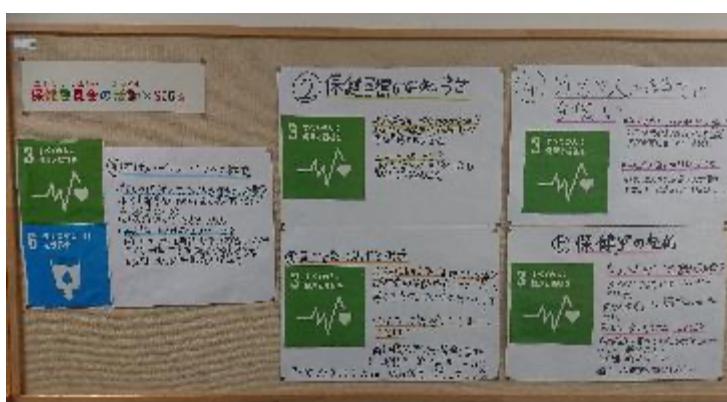
	<p>アが現地のスタッフと協力して作った歌です。マダガスカルは家に水道がなかったり、水が出なくなることも多く、使える水は限られています。それでも、この手洗いの歌を作って手洗いを普及させようとしました。なぜだと思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いが大切だから。 ・手洗いができなくて病気になると大変だから。 <p>○「もう一つ、マダガスカルの子どもたちに手洗いを教えるときに使っていた紙芝居を紹介します。」</p> <p>・紙芝居「Vahiny tsy iraina（招かざる客）」を読む。</p> <p>○「マダガスカルの子どもに手洗いの大切さを教えるために使っていた紙芝居ですが、紙芝居を聞いてどんな感想を持ちましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いができれば健康に過ごせる。 ・マダガスカルの人だけでなく、自分たちも同じことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水が制限されているイメージがわきやすいように、写真を提示する。 	<p>スライド8、9</p>  <p>資料3紙芝居「Vahiny tsy iraina」（JICA Madagascar）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を洗わないラケットはよくお腹を壊してしまうが、いつも手を洗うミラナは元気に過ごしている。 ・スライド10、11  <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
<p>まとめ (10分)</p>	<p>○「今日はマダガスカルの手洗いを通して、自分たちの手洗いと比べてみました。どんなことがわかりましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を洗うことが日本でもマダガスカルでも大事。 ・健康で過ごすために手を洗うことが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いが病気の予防方法として、日本から遠く離れている国でも大事であることに気付かせる。 	
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカルと日本の手洗いの共通点、相違点について気付き、表現している。（観察、ワークシート） ・手洗いが世界共通の病気の予防方法であることを理解している。（観察、ワークシート） 			

10. 学習方法および外部との連携

- 現地のスタッフとともに手洗い啓発のための歌「sasao ny tananao」を作成した元 JICA ボランティアの方に再度この歌ができた経緯について確認した。
- 元 JICA マダガスカル事務所のボランティア調整員の方に紙芝居「Vahinytsy iraina」ができた経緯について確認した。
- 当初、1クラスで実施する予定であったが、学年と相談し学年全体として第三小学校の手洗い改善に取り組むこととした。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- 学習指導計画を全教員に配布し、自由に参観できるようにする。
- 授業実施後に検討会を設ける。
- 児童集会で保健委員会が自分たちの活動をSDGsと関連させて発表する。

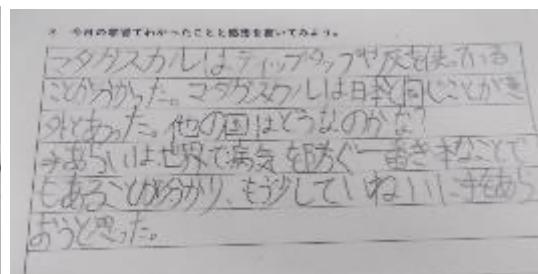
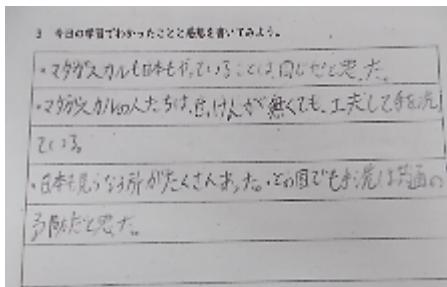
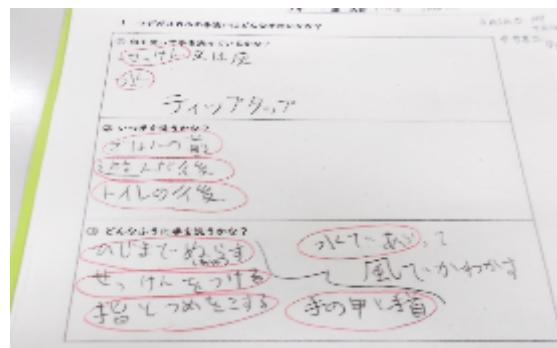


【自己評価】

12. 苦労した点	<p>・本時の中で「使える水が限られている中で、なぜ手洗いの歌を作って手洗いを普及させようとしたか。」という問い合わせに対し、予想していた反応が出るクラスもあれば、「同じ人間だから」と反応したクラスもあった。そこからもっと学びを深められるような手立てがあればよかったと思うが、時間が限られている中、難しかった。</p> <p>・手洗い改善に取り組む際に、第4時で課題解決のためのポイント（①問題の原因をつかんでいる。②相手のことを考えている。③すでにあるものを生かしたり、実際にできそうな方法を提案する。④思いついたアイディアに理由付けがある。⑤普及させる人がいたり、宣伝活動を行う。）を学習し、これらを生かしながら自分たちの手洗い改善策を考える活動を行ったが、経験値の問題もあり、なかなか自分たちの活動に落とし込むのが難しかった。</p>
13. 改善点	<p><本時について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの問題もあったが、後半話し合い活動を入れるとより学びが深まったと思う。 ・「なぜ使える水が限られている中手洗いを普及させようとしたのか」という問い合わせに対して漠然と思っていることが言語化する手立てや思考ツールなど使い、考えを整理したり表現したりする手立てをとればよかったです。

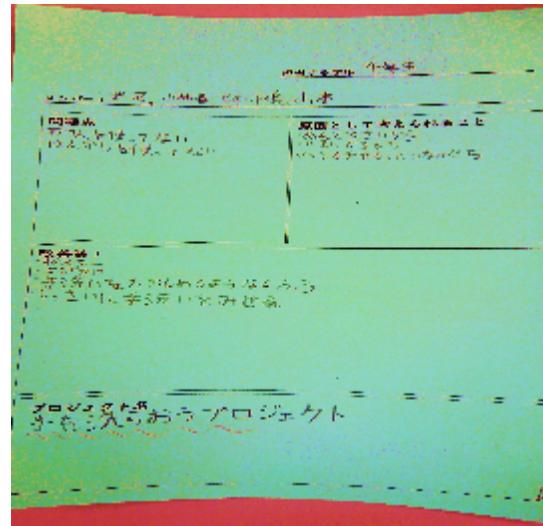
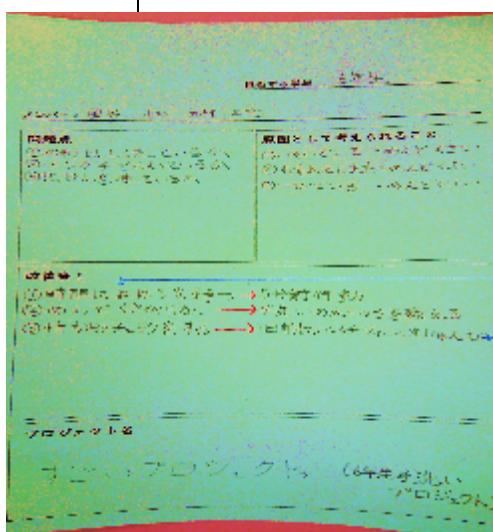
	<p><単元を通して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時は道徳でなく、総合の時間として扱っても良いと思う。 ・全13時間くらいあると、もう少し学びを深められるようなゆとりができたと思う。 ・問題解決の方法を考える段階で思考ツールなどを使って、アイディアを出したり、考えをまとめたりしてよかったです。 ・タブレットを使って手洗いのプレゼンテーションを行ったグループが多かったが、内容に根拠を持たせたり、軸がぶれない内容にするためにも、初めは手書きでプレゼンテーションする内容を深めてからタブレットの作業に移した方がよかったです。 ・8時、9時で発表のリハーサルを行ったが、そこからすべてに修正をかけるのは中々難しかったため、もう少し早い時間で1度リハーサルを行うと、他者の意見を取り入れたり、自分たちも手ごたえとして得るものがあり、もっとプレゼンテーションの内容が深まったと思う。
14. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・「手洗い」が世界共通の病気の予防方法であること、マダガスカルも日本も手洗いの大切さや手洗いの方法について大きく違わないことが理解できた。 ・マダガスカルの課題（手洗い）が自分たちにもつながっていることを実感することができた。 ・「手洗い」という身近な題材を選んだため、SDGsが他人事でなく、身近なところから取り組めることがわかった。 ・問題解決のときに「楽しんで手洗いを学んでほしい」という思いや「相手が○年生だから～」という相手の立場を考えた視点をもつことができた。 ・手洗いのプレゼンテーション実施後、手洗いが改善したかを検証するために、手洗いの様子を動画で記録したものを見た。その結果、以前よりも手洗いに改善が見られ、子どもたちの自信につながったと思う。 ・この単元の後、学年の先生がワークブックを使ってSDGsについての学習を広げてくださった。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p><第1時></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうして他の国事情や考え方を知ることが大切なのか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・その国の文化にかかわったときに助けられる。 ・相手のことをよく知った上で仲良くなれる。 ・違いを知り、認め合えれば差別がなくなり、助け合える。 ・いろんな国の人と意見を合わせたり、お互いの国いいところや違うところなどを見つけられる。 <p><2030年までにこんな世界になっていてほしい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーが世界中に届けられるようにしたい ・どこの国に行ってもきれいな水が使える ・誰でも学校に行ける ・貧困がなくなってほしい ・戦争がない世界になってほしい ・みんなが平等で暮らせる世界

<第2時（本時）>



→手洗いは命を守るための最も簡単な方法であり、世界共通の病気の予防方法であることがわかった。

<手洗い改善の計画～実践>



→問題点：「石けんを付けたのにこすっていない」「ハンカチを使っていない」

「時間をかけていない」「爪、手の甲、手首をあらっていない」

「石けんを使っていない」

問題点の原因：「石けんをつけたら洗った気になっている」「急いでいる」「面倒くさい」

「ハンカチを持っていない」「洗い方がわかっていない」

改善策：「手洗いの大切さを教える」「石けんを使う必要性をわかるようにする」

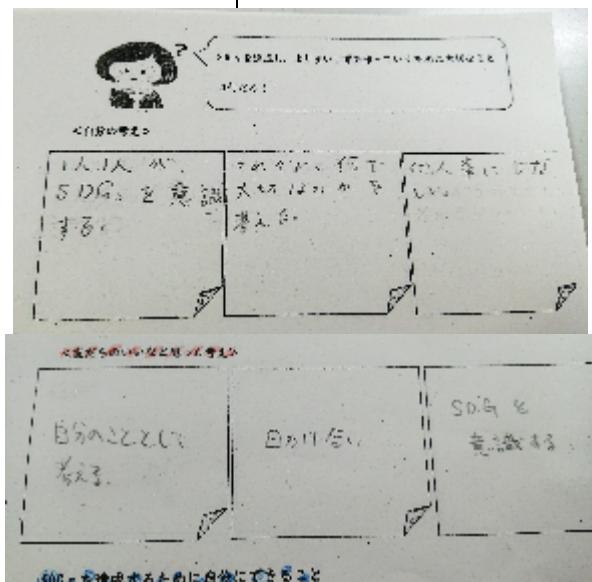
「手洗いチェックシートを作る」「ポスターを作る」「手洗いを楽しめるような工夫をする」「実際に手洗いをみせる」「ポスターを使って宣伝する」

<実践：朝の時間各教室に手洗いの必要性と洗い方を教えに行く>



・「手洗いの必要性を教える」という手立てでは、多くのグループが発表ノートやパワーポイントを使い、クイズなどを盛り込んで手洗いの必要性を教えていたが、他にも紙しばいや劇、タブレットでアニメーションを作成したグループもあった。
また、1年生担当のグループは相手が低学年ということを考えて、「実際に一緒にやる」という手立てを考え、実践した。

<まとめ>



SDGsを達成し、より良い世界を作るために大切なことは何だろう？

- ・身近にできることがあるかを考え行動する
- ・みんなが SDGs に関心をもつ
- ・みんなで協力する
- ・「周りの人がやればいい」という考えをなくす
- ・自分は関係ないと思わない
- ・自分のこととしてとらえる
- ・「自分は困っていないからいいや」ではなく「世界の誰もが達成する」ことを忘れない

SDGsを達成するために自分にできること

- ・他人事にせず、小さなことでも SDGs を意識する。
- ・エネルギーを大切にする
- ・食べきれない食べ物を買わない
- ・ゴミが出るもなるべく買わない。
- ・今回の手洗いの活動のように SDGs を知らない人に伝える。
- ・身近なところから改善する。

16. 授業者による自由記述	<p>私自身も子どもたちも「国際理解教育」について取り組んだのは初めてであった。単元のねらいである「手洗いは世界共通の病気予防方法であること」や「地球規模課題は自分たちとつながっていること」「SDGsは身近なところから取り組めること」が学びになったことはよかったです。何より子どもたちが SDGsについて「他人事だと思わないことが大切」という考え方をもってくれたこと、マダガスカルの手洗いソング「SASAO NY TANANAO(ササオニタナナオ)」を大好きになってくれたことが嬉しかった。</p> <p>子どもたちにとって、課題として捉えたことに対し、解決策を考え、表現するという活動がほぼ初めてであり、これまでの蓄積や経験値がない分、指導者としてうまく導いてあげられなかつた部分があるのが反省点である。今回の学びや経験を自信にして今後の活動に生かしてほしい。</p> <p>また、本単元を作るうえで一番悩んだのが、「学びの必然性」と「汎用性」の問題であった。今回は協力隊としての経験や職種上の特性をかなり生かした内容に振り切つてしまつたが、今後はこの2つの壁を乗り越えられる授業づくりに挑戦したい。</p>
----------------	---

参考資料：

- ・JICA Madagascar SASAO NY TANANAO（日本語字幕付き）

<https://www.youtube.com/watch?v=xRzjhj7LWoc>

- ・協力隊員×人気歌手の「手洗いソング」：マダガスカルで歌い継がれ、手洗い啓発にひと役 | 2020 年度 | トピックス | ニュース - JICA

https://www.jica.go.jp/topics/2020/20200508_01.html

- ・外務省 JAPAN SDGs Action Platform

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>

手洗いを通して
世界とつながる

1

マダガスカルはどんな国？



2

マダガスカルはどんな国？



3

マダガスカルはどんな国？



4

マダガスカルはどんな国？



5

マダガスカルはどんな国？



6

ティップタップ



7

使える水には限りがある…



8

使える水には限りがある…



9

紙しばい



10

紙しばい



11

※手洗いをしっかりする子どもは元気
ごはんの前には手を洗おう
遊んだ後も トイレの後も
手を洗おう！

※繰り返し

手をぬらそう ひじのところまで
きれいになるように 石けんをつけよう
一緒に指とつめをこすろう
そのあとは手の甲と手首

※繰り返し

<途中のセリフ>

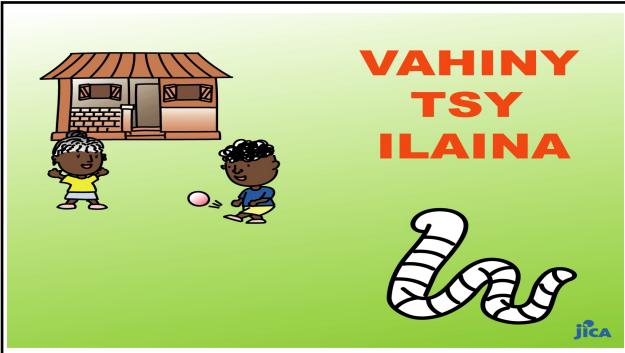
子ども：先生！手を洗う時、水道の水しか使っていけないの？
先生：いいえ、自宅のきれいな水をティップタップに入れて持ってきていいですよ。
子ども：なるほど！
先生：それから手洗いには石けんか灰を使うことも忘れないでね。
子ども：でもだれが用意するのですか？
先生：石けんや灰は学校が責任をもって関係者と相談して用意しないとね。

それが終わったら きれいな水で流そう
上の方まで 石けんが落ちるように
最後は風で乾かそう
しっかり乾いたら、みんな元気

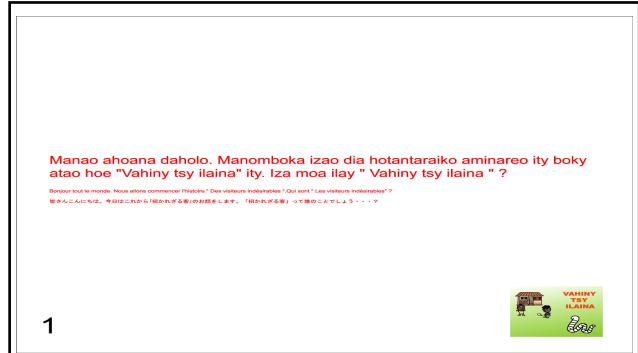
ねえねえ、もし石けんがなくても、代わりに灰を使って手洗いができるんだよ！

子どもは手を洗おう 私たちの手を見て
子どもは手を洗おう 私たちの手はきれいだね

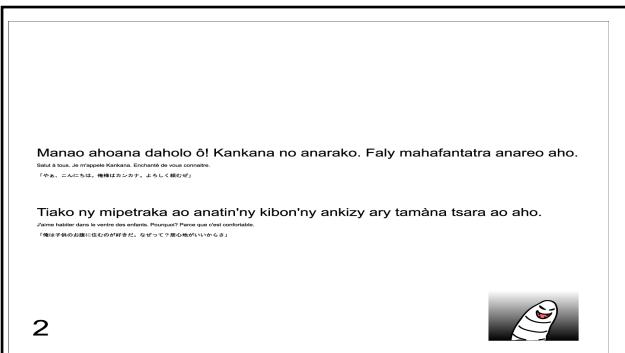
※繰り返し



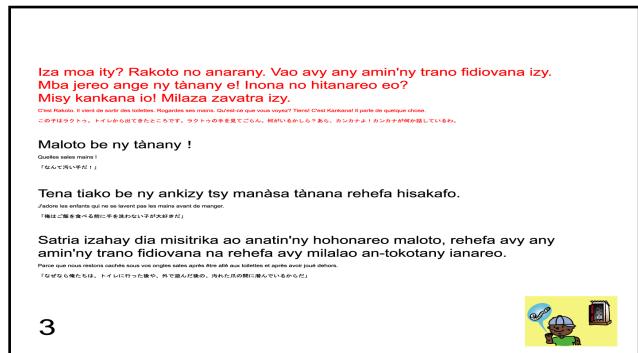
1



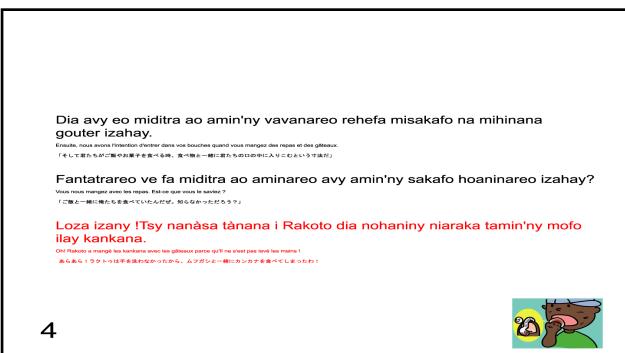
2



3



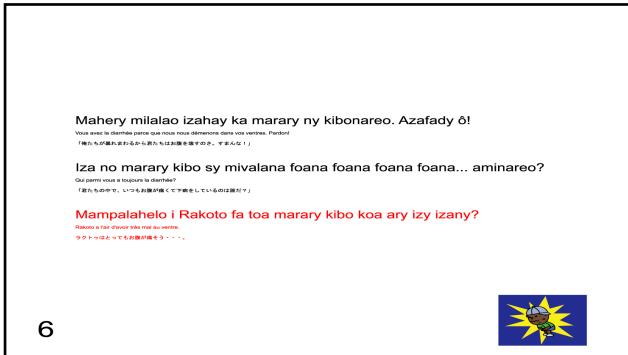
4



5

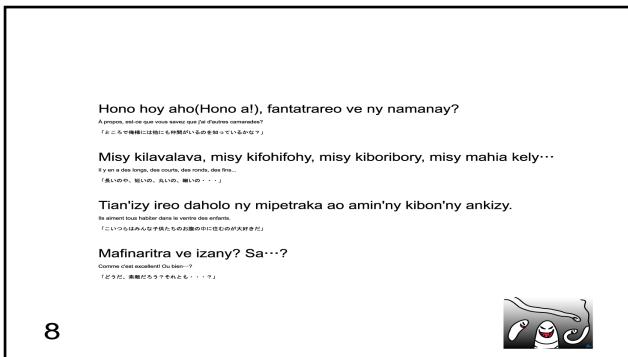


6



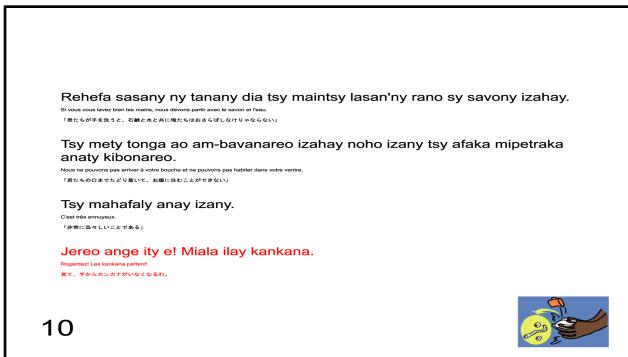
6

7



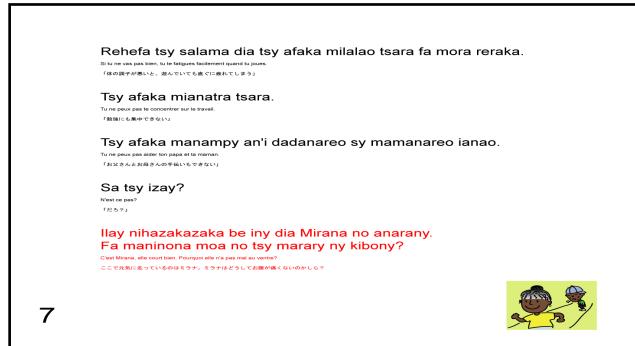
8

9



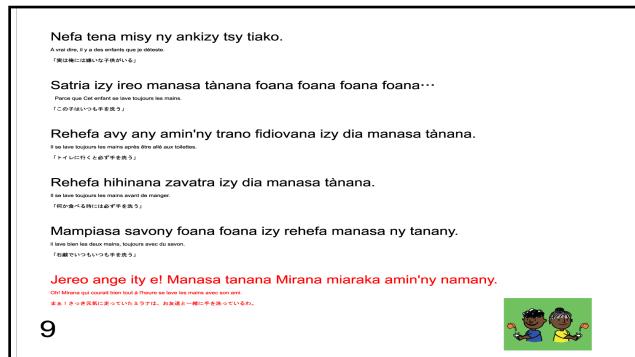
10

11



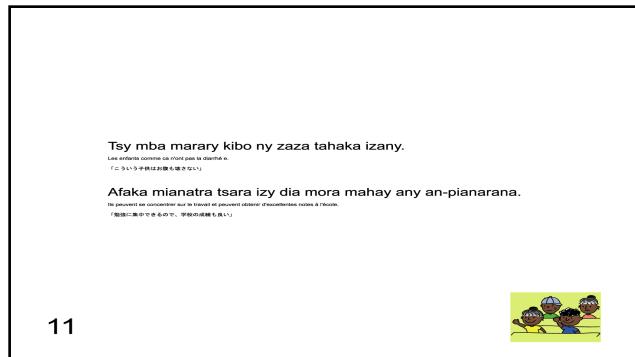
7

8



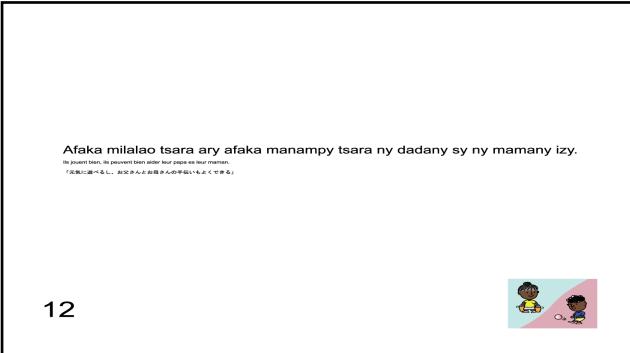
9

10



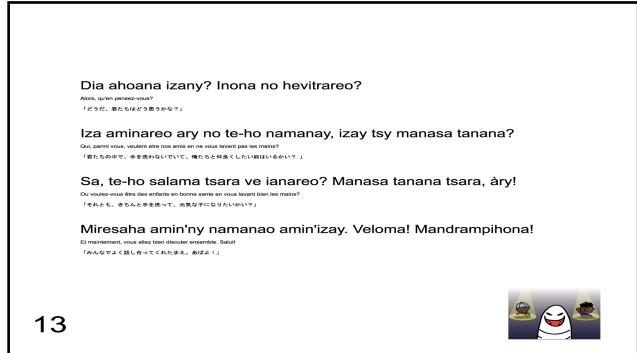
11

12



Afaka milalao tsara ary afaka manampy tsara ny dadany sy ny mamany izy.
Ils peuvent bien, ils peuvent bien se débrouiller par eux-mêmes.

2



Dia ahoana izany? Inona no hevitrareo?

Alors, qu'en pensez-vous?

Iza aminareo ary no te-ho namanay, izay tsv manasa tanana?

Qui, parmi vous, veulent être nos amis en ne nous lavant pas les mains?

So, to be called true we know \neg Mendes thinks that, and

Sa, te-ho salama tsara ve ian-

Miresaha amin'ny namanao amin'izay. Veloma! Mandrampihona!

Et maintenant, vous allez bien discuter ensemble. Salut.

13



手洗いを通して世界とつながる

ワークシート②

5年 組名前

1 マダガスカルの手洗いはどんな手洗いかな？

① 何を使って手を洗っているかな？

② いつ手を洗うかな？

③ どんなふうに手を洗うかな？

2 自分たちの手洗いと同じだと思うところに赤で丸をつけてみよう！

3 今日の学習でわかったことと感想を書いてみよう。